

公益財団法人 檉の芽会 御中

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 8 年 5 月 2 日
②法人・団体名	KADOMA 中学生勉強会		
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	〒571-0030 大阪府門真市末広町 29-1 市民文化会館ルミエールホール		
④責任者氏名	八上 真也	(役職名等)	代表
⑤担当者氏名	八上 真也	(役職名等)	代表

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R07-009	⑦助成金額	50 万円	⑧申請カテゴリー	B
⑨奨学活動名	すべての子どもたちが学べる『居場所』を！				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	門真市民文化会館ルミエールホール 〒571-0030 大阪府門真市末広町 29-1				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

活動内容：・経済的理由等で塾に通えない生徒への学習指導（大学生 1 名に生徒 1 名～2 名の個別指導）
・進学モチベーションの向上や第 3 の居場所を目的としたイベント行事の開催

活動期間：令和 7 年 5 月 28 日～令和 8 年 3 月 25 日

対象生徒：23 名 中学 1 年生～3 年生（市立はすはな中学校・市立第 3 中学校・市立第 2 中学校）

□経済的事情により塾に通えていない生徒 □学校の学習についていけない生徒

□様々な体験機会の少ない生徒

開催場所：門真市民文化会館ルミエールホール研修室・会議室（京阪古川橋駅から徒歩 5 分程度）

開催回数：全 60 回 毎週水曜日：40 回（19：00～20：30）

隔週土曜日：20 回（10：30～17：00 ※8 月開講・中 3 生のみ対象）

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	1,140	2.5h	2,850	水曜日（19:00～20:30）×40 回（23 人） 土曜日（10:30～17:00）×20 回（11 人）
高校生等	160	1.5h	240	水曜日（19:00～20:30）×40 回（4 人）
学習支援員等	720	2h	1,440	水曜日（19:00～20:30）×40 回（15 人） 土曜日（14:00～17:00）×20 回（6 人）
その他	60	2.5h	150	代表（活動日すべて参加）
合 計			4,680	

令和 7 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：すべての子どもたちが学べる『居場所』を！

法人・団体名：KADOMA 中学生勉強会

作成者 氏名：八上 真也

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

KADOMA 中学生勉強会では、活動拠点である門真市の子どもたちの取り巻く課題等（※以下の参考資料参照）を踏まえ、団体として3つの方針を掲げ、令和7年度の活動を実施した。

1) ロールモデルの提供、2) 第3の居場所提供、3) 学習の場（学習指導）提供

KADOMA中学生勉強会 ～課題への対応～

(1) 経済的に厳しい家庭の子ども達が学校外での学習指導を受けられる環境が必要

・子どもの貧困の指標となる就学援助認定率は全国平均の倍以上となっており、門真市の子どもたちの約3割が子どもの貧困状況にある
・塾に通うことができない割合が府平均より7ポイント高いなど、家庭の経済的事情により子どもたちの学習や体験機会に影響を与えている

(3) 学習に特化したサポートではなく、学力下位層や不登校生徒にとって「居場所」となる支援が必要

・府独自のチャレンジテスト(中3)では、国語・英語・社会において府内最低の平均点であるなど依然として府内最低水準の学力レベル
・市内中学校生徒の不登校率は全国平均を大きく上回っており、クラスで3名が不登校の状況にある

◆学習指導の場の提供

大学生から教えてもらい、「どうせ無理」と思っている生徒たちがやればできるということに気づける場をつくる。



普段の様子

◆第3の「居場所」提供

一般的な「塾」ではなく、大学見学やクリスマス会、遠足などのイベント行事を通して、生徒たちがホッとできる場所をつくる。



クリスマス会

- ☐ 学習を強制しない
- ☐ 生徒の主体性を重視（カリキュラムや宿題なし）
- ☐ 体験機会の提供
- ☐ 生徒同士の交流機会
- ☐ 中学卒業も利用可

KADOMA中学生勉強会 ～課題への対応～

(2) ロールモデルである大学生と身近に出会うことができる環境が必要

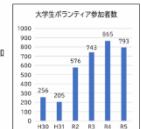
・保護者の大学進学が府平均を大きく下回っている影響もあり、大学への進学を希望している生徒の割合は府平均より10ポイント低い
・府内北摂地域に大学が集中しており、門真市は大学がなく、門真市の子どもたちは大学や大学生のイメージを持つ機会が少ない

◆ロールモデルの提供

地域に少ない大学進学者と交流する機会を設けることで、生徒たちが多様な価値観や選択肢と出会う場をつくる。



- ☐ 府内各地の大学から参加（参加者推移は右のグラフ）
- ☐ 毎回15名程度の大学生が参加
- ☐ 大学生がマンツーマンで対応
- ☐ 大学見学会の開催
- ☐ 大学生生活の紹介を実施

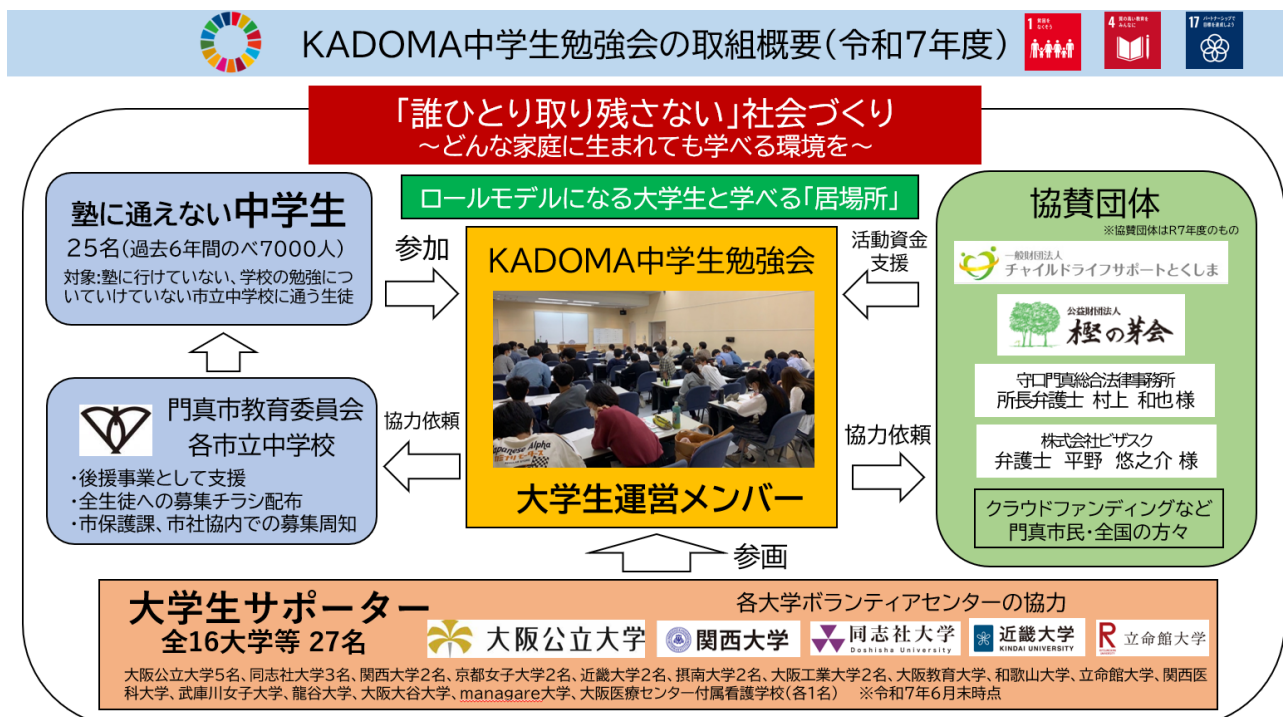


【令和6年度・参加大学生所属一覧】
大阪公立大学10名、同志社大学4名、関西大学3名、近畿大学2名、大阪大学、大阪教育大学、和歌山大学、立命館大学、龍谷大学、関西医科大学、大阪医科大学（各1名）※令和6年6月1日現在

項目	具体的内容
活動内容	・ 経済的理由等で塾に通えない生徒への学習指導 (大学生ボランティア1名に生徒1名～2名の個別指導) ・ 進学モチベーションの向上や第3の居場所を目的としたイベント行事の開催 ※ボードゲーム大会(7月) 夏祭り(8月) 遠足(10月) 大学学園祭見学(11月) クリスマス会(12月) 卒所式(3月)
活動期間	令和7年5月28日～令和8年3月25日
開催場所	門真市民文化会館ルミエールホール研修室・会議室 〒571-0030 大阪府門真市末広町 29-1
開催回数	全60回(勉強会・イベント行事含む) 毎週水曜日: 40回(19:00～20:30) 隔週土曜日: 20回(10:30～17:00 ※8月開講、中3生のみ対象)
対象生徒	23名(中3:11名 中2:8名 中1:4名) ☐ 経済的事情により塾に通えていない生徒 ☐ 学校の学習についていけない生徒 ☐ 様々な体験機会の少ない生徒
応募生徒数	37名応募(定員23名) ※申込時に家庭の経済状況(公的支援の受給状況等)や配慮事項を聞き取り 経済的状況等を総合的に判断し、生徒の参加を決定しています。
学習支援員	大学生ボランティア27名登録(毎回15名前後参加) 大阪公立大学5名、同志社大学3名、関西大学2名、京都女子大学2名、近畿大学2名、摂南大学2名、大阪工業大学2名、大阪教育大学、和歌山大学、立命館大学、関西医科大学、武庫川女子大学、龍谷大学、大阪大谷大学、managare大学、大阪医療センター付属看護学校(各1名)

2. 実施した奨学活動の詳細

※参考資料：令和7年度の実施体制



◆参加生徒について

KADOMA 中学生勉強会のご案内

開催 8 年目!!
大学生が無料で勉強教えます!!

家だと勉強できない...
学校の勉強についていけない...
塾に行けなくて、
大学生と学べる環境を...

大学生有志(ボランティア学生 30 名)が門真の子どものための学習をサポートします!
協賛団体のほか地域の皆さま、全国の方々の温かいご支援によりボランティアで活動しています。

5 月 28 日(水)からスタート!!

場所: 門真市民文化会館ミエールホール3F 研修室・会議室
時間: 19:00~20:30(毎週水曜日/隔週土曜日) 年間60回 費用: 無料
定員: 25 名程度 中学1年~3年(はすはな中・第3中・第2中に通う生徒が対象)
※申込条件 必経済的理由等で有料塾(公文・家庭教師等)に通うことが難しい生徒
※1年開校までに継続して参加できる生徒 休学期に不安がある生徒

「門真の子どものために」

活動内容
門真市内の中学生を対象に大阪公立大学、関西大学などの大学生がボランティアで個別に学習のお手伝いをします。(大学生 1 名に中学生 2 名程度)
※教材は各自でお持ちください(学校のもの可)

参加時の持ち物
筆記用具、勉強したいプリントや問題集など

申込み方法
下記フォームにて申込みを受付けます。
(なお、申込多数の場合は、参加者を抽選で決定)
【申込締切】5 月 4 日(日)まで
【抽選開始】5 月 18 日(日)にメールで通知します
※必要に応じて、抽選前に面接を実施する場合があります(面接を行う場合は連絡します)
※ネット申込みできない場合は、下記の電話番号でも申し込みを受け付けておりますので、いずれかの方法で申し込みください。

【学生教習リーダー】
大阪公立大学 教習福祉学専攻 4 年 田中 美里
大阪教育大学 教習福祉学専攻 4 年 嵯峨 結子
【中学生教習補助員】(面接を要する) 高橋 せな(申込先)
電話: 070-8417-6477 (昼間・土日)

【協賛】一般財団法人チャイルドライフサポートとくしま・守口門真総合法律事務所 所長 弁護士 村上 和也様
【後援】大阪公立大学教育後援会 門真市・門真市教育委員会(予定)
【協力】門真市社会福祉協議会 門真市立図書館(協賛決定後要確認)

市内関係機関の協力(詳細については次頁参照)をいただき、4 月 10 日~5 月 4 日までを応募期間とし、左のチラシを配布の上、生徒募集を行った。

客観的指標として、応募時に以下の 10 項目(①生活保護、②児童扶養手当、③就学援助、④ひとり親家庭、⑤共働き家庭、⑥賃貸住まい、⑦家族に介護中の方がいる、⑧公共料金の支払いを滞納したことがある、⑨直近 1 年、宿泊を伴う旅行に行けていない、⑩その他)の該当状況を聞き取り、必要に応じて直接ヒアリングを行い、代表及び運営メンバーの大学生とともに協議を行い、参加生徒を決定した。

参加決定生徒の状況は以下のとおりです。

- ・受入生徒 23 名(内訳: 男 11 名、女 12 名)
- ・23 名のうち、公的支援受給生徒は約 61%
- ・ひとり親世帯の生徒は約 30%



	中3	当選	中2	当選	中1	当選	合計	当選
はすはな	5 名	4	7 名	4	8 名	2	20 名	10
3 中	4 名	4	4 名	4	3 名	2	11 名	10
2 中	3 名	2	1 名	0	1 名	0	5 名	2

(その他)中3:1名

※応募前に当会の活動趣旨を説明した動画視聴を必須(上記 QR コード参照)としたこと及び募集チラシにおいて、「経済的理由等で通塾が難しい生徒」を明確に記載したこともあり、例年よりも応募者数が少ない結果となった。しかしながら、応募のあった 37 名から 23 名への絞り込みは、非常に難しい業務であった。

◆生徒募集にあたっての関係機関の協力

対象中学校（市立はすはな中学校・第3中学校・第2中学校）の協力を得て、全生徒に対して募集チラシを配布。また、市教育委員会を通じて校長会でも周知をいただき、学校長から担当教諭・SSWなどを介して、必要としている生徒・保護者へ直接呼びかけを行っていただいた。

さらに、市の各担当課（生活保護課、家庭児童相談所、子どもの未来応援チーム）においても、ケース家庭への訪問時や資料郵送時に周知をいただいた。

KADOMA中学生勉強会の生徒たち（生徒募集方法について）

KADOMA 中学生勉強会のご案内

大学生有志(ボランティア学生 30名)が門真市の子どもの学習をサポートします！
 活動内容は、地域の子どもたちへの学習支援、大学生が無料で勉強教えます！

5月28日(水)からスタート！！

場所：門真市民文化会館3F 研修室・会議室
 時間：19:00～20:30(毎週水曜日・隔週土曜日) 年間60回 費用：無料
 定員：25名程度 中学1年～3年(はすはな中・第3中・第2中に通う生徒が対象)
 ※申込条件 経済的理由等で学習困難(公文・家庭教師等)に通うことが難しい生徒
 ※1年間休まずに継続して参加できる生徒 学習意欲に不安がある生徒

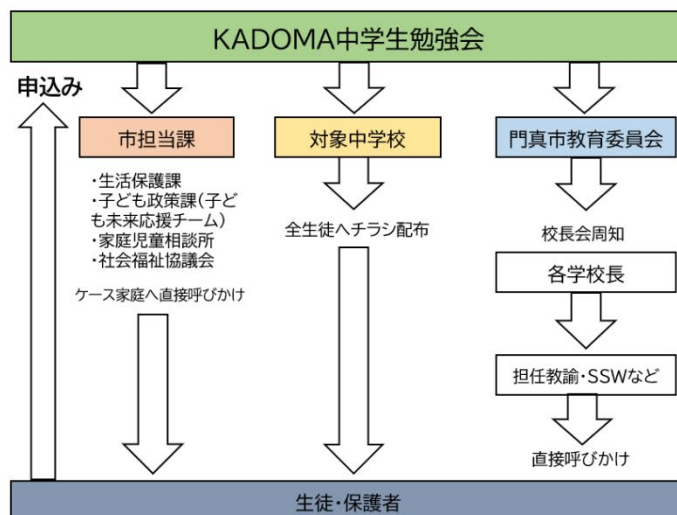
「門真の子どもたちのために」

活動内容
 門真市内の中学生を対象に大阪公立大学・関西大学などの大学生がボランティアで個別に学習のお手伝いをします。(大学生1名に中学生2名程度)
 ※教材は各自で持参してください(学校のものを可)
 ※応募される場合は、応募前に必ず、左のQRコードから生徒募集説明動画を視聴してください。また、申込をするようにお願いします。

参加時の持ち物
 筆記用具、勉強したいプリントや問題集など

【協賛】一般財団法人チャイルドライフサポートとくしま・守口門真総合法律事務所 他多数
 【後援】大阪公立大学教育後援会・門真市・門真市教育委員会(予定)
 【協力】門真市社会福祉協議会・NPO法人イボックス(施設指定管理者)

生徒募集チラシ(令和7年度)



※申込時に家庭の経済状況(公的支援の受給状況等)や配慮事項を聞き取り、定員超過の場合は、経済的状況等を総合的に判断し、生徒の参加を決定しています。



応募説明動画(生徒・保護者へ申込時に動画視聴を必須としています)

◆学習支援員（大学生ボランティア）について

KADOMA 中学生勉強会(居場所・学習支援事業)

学習支援ボランティア募集！！

【概要】
 対象：この事業に興味・関心のある大学生・大学院生(学力レベル不問)
 内容：経済的理由等で勉強に困っている中学生への学習指導(大学生1名に生徒1名～2名の個別指導)
 ・進学モチベーションの向上や第3の居場所を目的としたイベントの開催
 ※ボードゲーム大会(7月) 夏祭り(8月) 遠足(10月) 大学見学(11月) クリスマス会(12月) 卒所式(3月)

【日時と場所】
 ■毎週水曜日(5月下旬より) 19:00～20:30 ※対象者：中学1年～3年(25名程度)
 ■隔週土曜日(9月より) 10:30～12:00 ※対象者：中学3年(15名程度)
 門真市民文化会館3F エルホール (門真市末広町 29-1)
 ※京阪電車・古川橋駅から徒歩5分程度 (京阪線からJR・京阪で 25分)
 謝礼：1回あたり1000円 交通費：支給あり(上限往復1800円 ※定期通勤除く)

【学生の力】 市内10校 令和3年度「未来をつくる若者・プロ・ザ・未来」市内府県代表受賞！
 2025年度で活動8年目を迎えるKADOMA中学生勉強会。この7年間、多くの皆さまの理解もあり、運営から企画まですべて学生主導で行ってきました。「大学」「大学生」という身近なモデルを生徒たちに見せてあげたい。決して先生と生徒のような上下の関係ではなく「対等の関係」で接することによって、生徒たちの居場所にもなります。学生の力で生徒たちの夢や目標に後押しを！！

【どんな家庭に生まれても学べる環境を】
 門真市では、「(経済的理由で)学習意欲に欠けなかった」と回答した中学2年生の保護者が17.0%(前平均10.6%)※門真市子どもの生活実態調査より。子どもたちの学習意欲の向上は、就学支援制度が全国平均の倍、29%など高い環境にいる子どもたちが多くいます。そんな彼らの学ぶ場・居場所を作りたい。「門真の子どもたちのために」！！

【誰かのために】
 「自分のために」頑張るのは当たり前に。でも「誰かのために」頑張るのは、なかなかできることではありません。社会人になればますます「誰かのために」活動するのは難しくなります。人生は一度きりです。「誰かのために」あなたの力を貸してください！一緒に頑張ってみませんか。

【後援】大阪公立大学教育後援会・門真市・門真市教育委員会(予定)
 【協賛】一般財団法人チャイルドライフサポートとくしま・守口門真総合法律事務所 他多数
 【協力】門真市社会福祉協議会・NPO法人イボックス(施設指定管理者)
 ※なお本事業は、国や自治体からの支援を受けず、地域の皆さまや全国からの協賛により活動させていただいております。

募集へ

学習支援員募集については、各大学のボランティアセンターや大学教授等を通じて、左のチラシを配布し募集を行いました。また、ボランティア募集サイトの Activo や当会の公式HP、X等でも周知を行った。

大学生ボランティアについては、初回申込後に面接(動機の確認等)や現場の見学を行っていただき、参加意向のあった方には研修動画(90分程度)において、門真市の子どもたちの取り巻く環境や団体の活動方針、生徒への接し方などを学習いただいた上で、生徒へのサポートを実践いただいている。

毎回活動終了後には記録ノートに生徒の様子等を記入いただき、他の大学生でも対応できるよう配慮している。また、2か月に1回程度大学生ボランティアミーティングも行い、生徒への対応での困りごとなどに対して、先輩大学生がアドバイスをを行っている。

登録者：大阪公立大学5名、同志社大学3名、関西大学2名、京都女子大学2名、近畿大学2名、摂南大学2名、大阪工業大学2名、大阪教育大学、和歌山大学、立命館大学、関西医科大学、武庫川女子大学、龍谷大学、大阪大谷大学、managare 大学、大阪医療センター付属看護学校(各1名)

◆活動の様子及び活動報告について

1) 勉強会の様子

机の真ん中に大学生ボランティアが座り、両端に担当する生徒が着席。

毎回、開始直後に習熟度別に問題プリント（過去問や簡単な計算問題）を配布し、間違った問題などは大学生ボランティアが解説。その後は、生徒が持参した学校の宿題やワーク、テスト問題などを元にサポートを行いました。毎回の活動終了後には、支援者の方から差し入れていただいたお菓子やジュースを配布させていただいた。

土曜日の勉強会では、中3生を対象に8月（部活引退後）から開校。午前中に勉強会を開催し、午後から自習スペースを開放した。年末からは、模擬試験を実施して入試対策を行った。



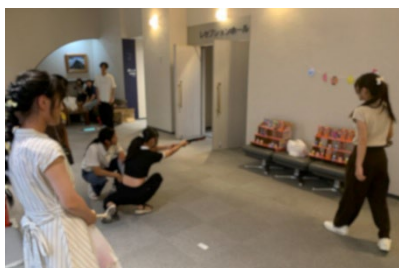
研修室（水曜日）



会議室（土曜日）

2) イベント行事の開催

生徒たちへの機会の提供および第3の居場所提供を目的に、季節ごとに各種イベント行事も開催。開催にあたっては、運営メンバーの学生たち（大学生ボランティアのリーダー）が中心となって、当日の企画・運営を行い、また支援者の方からもサポートいただき開催した。



夏祭り（8月）



大学・学園祭見学(11月)



クリスマス会（12月）

3) 活動報告

2か月に1回程度通信号を発行し、支援者等に対してメルマガにて情報発信。また、毎回の活動の様子を公式HPやX（旧Twitter）Facebookなど各SNSでも報告を行った。



3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

◆参加中学生の定着率 100%（初）

25 年度は、例年より大学生ボランティアの参加が少ないことが見込まれたこともあり、生徒定員を絞った中ではあったが、1 人も欠けることなく、最後まで参加することができた。毎年、様々な事情で、途中退所をする生徒もいたが、活動 8 年目で初めての定着率 100%を達成。

参加した生徒の声（参照：年次報告書）にもありましたが、大学生ボランティアの皆さんが献身的に生徒たちをサポートしてくださったおかげです。心より感謝申し上げます。

◆学習支援だけでなく「楽しく」「安心できる」居場所を提供

年度末の生徒アンケートにおいて「あなたにとって勉強会はどんな場所？」という項目を設定。生徒らの自由記述の文書から、当会が学習支援の場だけでないことを示す内容となった。

（アンケート結果）

「勉強だけでなく、様々な人とのコミュニケーションを取ることができ、自信がつけられる大切な場所」
「強制されない、楽しい場所」「なんやかんやで安心できる場所」「安心して相談勉強できる場所でした」
「勉強するのが嫌だと思わない水曜が楽しみになった場所」「楽しく勉強のできる場所」
「やる気がなくても自分から勉強をやりようと思えた場所」「ほっとする場所」
「楽しくて安心できる場所」「唯一無二の勉強できる場所」「優しい人、頑張ってる人が沢山いる場所」

◆学習面以外でも前向きな変化がみられた

1 年間参加した生徒に学習面以外の変化についてアンケートを行ったところ「頑張ればできると思えるようになった」「自分に少し自信がついた」などの回答が上位を占めた。

大学生ボランティアが個別に学習指導をすることで、今まで分からなかった問題ができるようになったこと、他人に尋ねる経験などが学習面以外にも前向きな変化を及ぼしていると考えられる。

※生徒「勉強会に参加して、勉強面以外での変化を教えてください」（複数選択可） M=21

頑張ればできると思えるようになった	13(62%)
自分に少し自信がついた	10(48%)
自分も誰かの役に立ちたいと思った	8(38%)
分からない事が恥ずかしいと思わなくなった	6(27%)
コミュニケーション能力が上がった	5(24%)
悩み事が減った	3(14%)

◆組織の持続性と公的責任の境界（課題・反省点）

代表が本業と活動を兼ねる「二足のわらじ」体制の限界が最大の課題。代表個人への過度な依存を脱し、社会人も運営に加わる強固な組織への移行を模索している。また、活動が行政の本来果たすべき公的責任を肩代わりしすぎないように、適切な境界線を維持し、公的支援の在り方を問い続けることも重要な論点となっている。

◆対象拡大と支援の循環による自立（今後への発展性）

2026 年度より対象を市内全域の中学校に拡大し、行政事業廃止の受け皿としての機能を強化する。支援の質の維持や貢献への応えるため、学生ボランティアの謝礼を 10%引き上げるベースアップを実施予定。元生徒がボランティアとして戻る「支援の循環」を加速させ、代表個人に頼らず地域全体で子供を支え続ける自走型組織を目指す。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

参加した生徒・保護者・大学生ボランティアのメッセージを一部紹介。

<生徒メッセージ>

「最初は大学生ってどんな人だろう？と感じていましたが、話してみると優しく、明るい人が多かったため、話していて楽しかったです。自分に自信をつけてくれたのも大学生が励ましてくれたり、一生懸命わかるまで教えてもらったからだと思っています。沢山勉強を教えていただけて嬉しかったです。ありがとうございました。（中3）」

「今までたくさん勉強を教えてくれて、本当にありがとうございました。わからないところをていねいに教えてくれたり、できたときにほめてくれたりしたおかげで、少しずつ自信がつきました。大学生のみなさんに教えてもらえて本当によかったです。（中3）」

「この一年間、勉強だけでなく真面目にがんばることの大切さ、続けることの大切さも教えてもらいました。勉強会で学んだ事や、皆さんの優しさはこれからもずっと忘れません。この勉強会で皆さまに出会えて本当によかったです。本当にありがとうございました！（中1）」

<保護者メッセージ>

「毎週の勉強会をととても楽しみにしており、大学生のお兄さん・お姉さんとお話ししながら学ぶ時間が大きな励みになっていました。わからない問題にも前向きに取り組めるようになり、「できた！」という経験を重ねることで、自信もついてきたように感じています。勉強面だけでなく、年上の方と関わることで視野も広がり、良い刺激をたくさんいただきました。このような機会を与えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。（中3保護者）」

「おやつや遠足、クリスマス会等、子ども達が心から楽しめる盛り沢山の企画を用意してくださり、ここまでしていただいているのだろうかと恐縮するほどでした。特にクリスマス会の日には本当に特別な1日だったようです。沢山のごちそうにプレゼントまでいただき大喜びで帰宅してからもずっとその話をしていて感動が伝わってきました。無料とは到底思えないほどの温かさや手厚さに何度も救われて、感謝の気持ちであふれております。勉強会をご支援ご協力していただいた皆様のご厚意・善意がなければ、子ども達のこの温かな唯一の「居場所」は存在しなかったと思います。沢山の子ども達の未来を支えてくださって、感謝という言葉だけでは足りませんが、本当にありがとうございました。（中1保護者）」

<大学生ボランティアメッセージ>

「日頃より温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。本活動に参加する中で、子どもたちの「できた！」という小さな成功体験が、学び続ける力につながっていく瞬間を何度も目の当たりにしました。同時に、支援とは一方的に与えるものではなく、子どもたちとの関わりの中で私自身も多くを学び、成長させていただいていると実感しています。今後も、この経験で得た学びと感謝の気持ちを大切にしながら、子どもたちに寄り添う支援を続けてまいります。引き続き温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。（大阪公立大学4年）」

「KADOMA 中学生勉強会をご支援いただきありがとうございました。支援者の方々の温かいご支援のおかげで、中学生が安心して学べる環境を作ることができました。また、私はこの勉強会で中学生が一生懸命、物事に取り組む姿勢に刺激を受け、自分自身も努力を続けようと思うようになりました。この場を支えてくださった皆さまへの感謝を胸に、これからも頑張っていきたいと思います。ご支援いただき、誠にありがとうございました。（大阪教育大学4年）」